

<大暑>この半月は1年のうち最も暑い節季“大暑”でこれが過ぎるともう“立秋”です。雑木林は“ヤマノイモ”の蕾のままで開かないような白い小さな花のほかは「花少なく緑濃し」と思っていました。ところが“ヤブミョウガ”の花が俄かに咲きだしました。雑木林の湿った縁辺で大きな群落となっていて一面の白が目を惹きます。“センニンソウ”もちらほらと咲きだし“アキノタムラソウ”が青紫の花を付けています。炎暑の中に微かな秋の気配がしてきたようです。

<右上:ヤマノイモ、右下:ヤブミョウガ>→



(ヤブミョウガ) 葉の形から“ミョウガ”の名が付いていますがツユクサの仲間です。(アキノタムラソウ)シソ科の植物で仲間に“ハルノタムラソウ”、“ナツノタムラソウ”があります。アザミに似た“タムラソウ”とは無関係で名の由来は不明です。



←<アキノタムラソウ>

<珍しやーその2ー>生き物を呼び寄せそして育むビオトープの力にあらためて驚かされます。“ハグロトンボ”がやってきました。ひと昔前には水辺でよく見られたのですが久しく目にすることのなかったトンボです。身を休めるとき、4枚の翅を閉じてはまた思い出したかのように広げます。この仕草が神や仏に掌を合わせる姿に見えることから“神様とんぼ”とか“仏とんぼ”と言われます。ゆったりと翅を動かして飛ぶ姿も優雅ですね。もう一つの“珍しや”は雑木林の脇で見かけた“アカボシゴマダラ”です。白黒の斑(まだら)模様と赤い斑点の目立つこのチョウは中国から持ち込まれたようです。愛好家が放チョウし2000年初頭から関東に生息域を広げていると言われています。



<仲良く>この夏は今までになく沢山のニホンアマガエルがビオトープで育ったようです。池だけでなくそ



<上:ハグロトンボ、下:アカボシゴマダラ>ここに注ぐ流れの周りでも数多く見られます。写真の子ガエル2匹(姿形に個性あり!)はヒシの葉の茂った大草原(?)を仲良く狩りに出たのでしょうか。一方、オオシオカラトンボのカップル(右写真)は仲良くどころか子孫を残すため必死です。暫し翅を休めていますがすぐに別のオスの襲撃を受けます。

